

ダンスでここから這い上がれ！

松本侑壬子・ジャーナリスト

今流行の社交ダンス、中高年向けのバレエでも、あるいは動きの激しいヒップホップでも、ダンスはすてき！ 実際には踊らなくても、見ているだけでも踊る楽しさは十分に伝わってくる。

しかし、この映画のダンスはそんな生やさしいものではない。何しろ「踊ってるんじゃない。闘ってるんだ！」と言うのだから。尾てい骨にまで響き渡るビートの利いたリズムに乗って、まるで決闘のような激しいダンスに圧倒される。これは、「アンディー・ウォーホール最後の弟子」として知られる世界のトップ・ファッション写真家、デイヴィッド・ラシャベルが、偶然知り合った街のダンサーたちの生き方に魅了されて3年がかりで撮り上げたユニークなドキュメンタリー映画である。独特な色彩感と躍動感が画面にあふれている。

ロサンゼルスサウス・セントラル地区は「アメリカで最も危険」と言われる地域だ。暴力と銃声が日常茶飯事のこの地区では、過去にも何度も大きな暴動が起き、一般人が犯罪に巻き込まれている。もし家族にギャングがいれば、子どももそのままギャングになるしかない。そこで若者にとって生き残るための選択肢は「ギャングかダンスか？」の2つしかないのだという。

映画の冒頭、「この映画の中のダンスは早回しではありません」と監督のメッセージ。そう断らねばならないほどに、ダンサーたちの体の動きは速い。今世界で最も新しく熱いダンス・ムーブメントと言われる「クランプ・ダンス」である。男女共に無駄な贅肉のないしなやかで美しい身体が、汗を飛び散らし、激しく痙攣するかのよう

にトとシンクロした動きを繰り返す。踊りというよりは、まさに闘いのような。二人が向き合い、互いに挑発し合いながら、しかし決して相手の体には接触せずに激しく踊る。肉体と精神との限界に挑戦するかのよう

に熱く踊る。ダンサーはもちろん、見ているほうも高揚し、トランス状態に入っていく…。ダンスを「この街からRISE(這い上がる)する」ための希望にしようと立ち上がったのが1人の若者、トミー・ザ・クラウンである。1992年、初めてピエロのメイクをし、1人の子どもの誕生日祝いに出かけたのをきっかけに、お祝いやパーティーの余興として家々を訪問しては、ダンスを披露し、地元の若者たちにも教えてきた。トミーのダンスは、アフリカの民族ダンスに似た、体を小刻みに動かしながら独特なリズムに乗る「クラウン・ダンス」。その後トミーの弟子が独立してより動きの激しい「クランプ・ダンス」を新しく作った。トミーはこの2つのヒップホップダンスの流れをグループごとに舞台に上げ、技とセンス、ダンスにかける情熱を競わせることを思いつく…。ダンサーは一人ひとりガベ

ストを尽くしてチームの誇りと名誉のために闘う。青空の下で繰り広げられる「這い上がるためのダンス」はパワフルだ。感動的



アメリカ映画 (87分) / デイヴィッド・ラシャベル監督

『 RIZE (ライズ) 』

公開中



©2005 Lionz Den Productions inc. All Rights Reserved